

生きる音

大和田 美咲

福島県郡山市

十九歳

「疲れちゃった」

ゆっくりゆっくり足を動かす。

あてもなくフラフラ フラフラと。

ふと顔を上げるとそこは

緑が茂る、深い深い森の中。

ふあさふあさ

木々達が何かを話している。

なにを話しているかはわからない。

地平線に広がる緑の真ん中で

わたしは深い深呼吸をした。

緑の空気が体の中を巡って巡る。

自分の中の悪い空気が抜けていく音がする。

ふしゅー。

ふあさふあさ

ふしゅー。

ふあさふあさ

ああ、やっとわかった。

この木々達は私の悪い空気と会話をしてくれているんだ。

ふしゅー。

ふあさふあさ

ふしゅー。

ふあさふあさ

ふしゅー…

ふあさふあさ…

耳を澄ますとたくさん音がする。

川の流れの落ち着く音。

空気と空気が擦れる音。

木々達に囲まれて、私が生きる音。

どくん。

私は生きていた。

何のために生きているのか、わからなかったこの世界で
私は私で良いのだと教えられた。

背筋をしゃんとして、軽快に歩く私の後ろで
木々達はふあさふあさといっていた。